条幅部自由参考

11月25日正午必着

明石春浦先生書

身無遺憾常安枕（みにいかんなくつねにまくらをやすんず）
室有餘閒自煮茶（しつによかんあればみずからちやをにる）
（趙　翼）　茶趣。

明石幸子書

吹笛秋山風月清（しゅうざんにふえをふいてふうげつきよし）
（杜　甫）　風月清き秋山に笛を吹く。

11月25日正午必着

菅井松雲先生書

嘉樹生二朝陽一
執心守二時信一
凝霜封二其條一
歳寒不二敢凋一　（陸　機）

松柏の如き常緑のすぐれた樹は朝日のあたるところに生長しているが、霜がその枝をびっしりと封じこめている。しかしこの樹は固く心をもって信を守り、寒い季節にもあえて凋まないのである。

条幅部創作課題

四種の詩文から一種を選択して出品のこと。

勁風掃二寒木一（呉　均）

勁風寒木を掃う

涼風吹二沙礫一霜氣何皚皚
明月照二緹幕一華鐙散二炎輝一（劉　楨）

涼風沙礫を吹き　霜氣何ぞ皚皚たる
明月緹幕を照らし　華鐙炎輝を散ず

つよい風がさむざむとした木に吹いて葉を掃い落す。
寒風は沙礫を飛ばして吹き、霜は地を真白に覆う。
折しも明月は赤黄色の幕舎を照らし、内なる燈火は炎の光をまき散らす。

送二曹椅一　（司空曙）

青春三十餘　衆藝盡無如
中散詩傳レ畫　將軍扇賣レ書
楚田晴下レ雁　江日暖多レ魚
惆悵空相送　歡遊自レ此疎

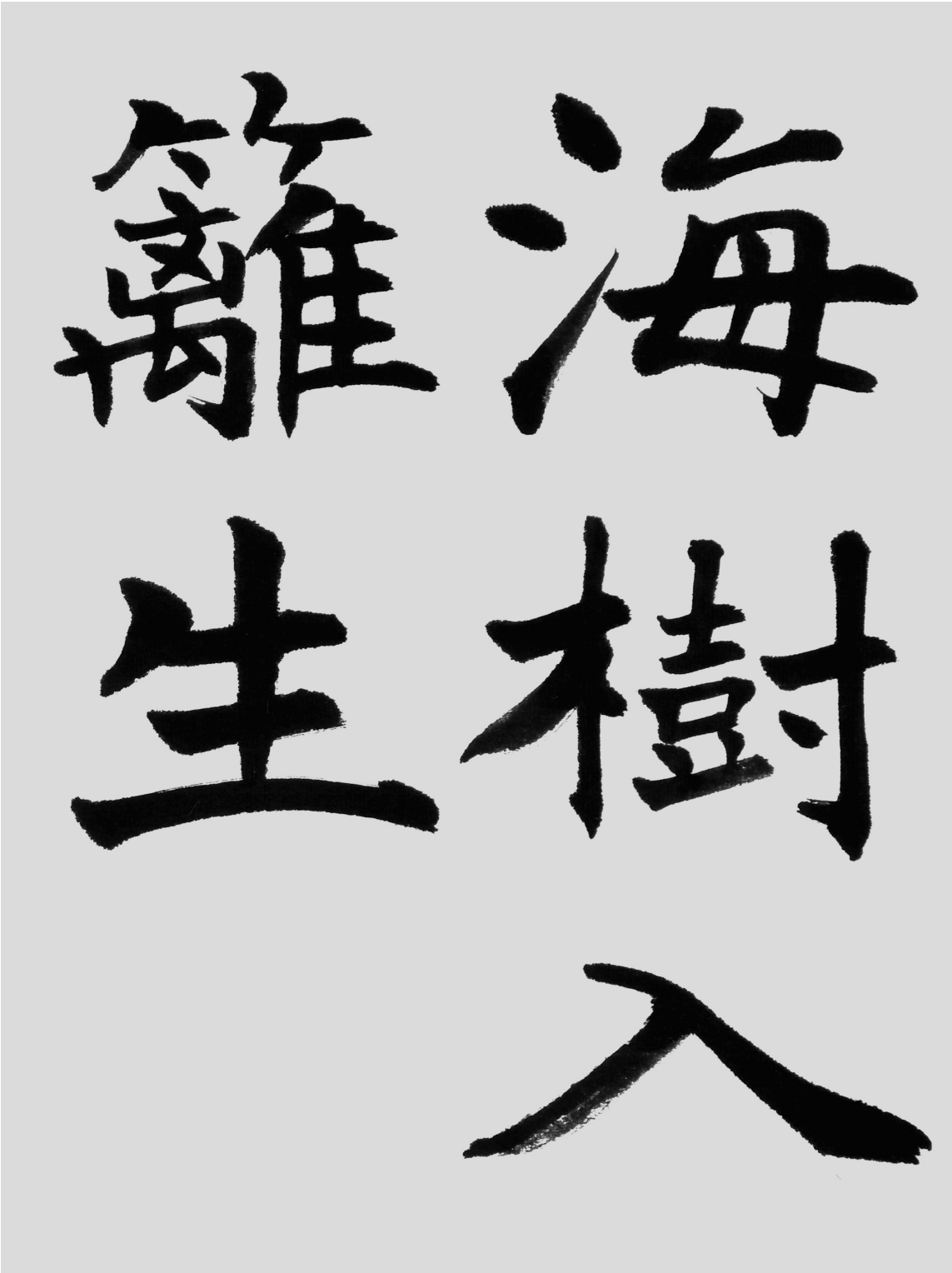
曹椅を送る　司空曙

青春　三十余　衆芸　尽く如く無し
中散の詩は画を伝え　将軍の扇は書を売る
楚田　晴れて雁を下し　江日　暖かくして魚多し
惆悵として　空しく相送る　歓遊　此れ自り疎ならん

夕されば　海上潟の　沖つかぜ　雲居に吹きて　千鳥なくなり　（賀茂　眞淵）

半紙部規定課題Ａ

11月25日正午必着



明石春浦先生書

※作品には必ず落款を入れてください。

※課題Ａ（楷書）と課題Ｂ（四体の中より一書体選択）の二点を出品のこと。

半紙部規定課題Ｂ

11月25日正午必着

行書

草書

隷書

行草書

明石春浦先生書

胸を傷めつつ詩を吟じ、ただひとり歩む。すべてに深い感懐をもよおす。
かの人が魚を釣ったところに久しく立ちつくすとき、ただ鳥の声がきこえてくるだけ。
山中の蔬菜は雨にうたれて枯れ尽き、水辺の樹木が籬の中にはいりこんではえている。
いまわれこの谷川のほとりにあって、君を懐しみ、悲しみ悼む気持をおし静めることができない。

經周處士故居　方干

愁吟與獨行
何事不關情
久立釣魚處
惟聞啼鳥聲
山蔬和雨歇
海樹入籬生
吾在茲溪上
懷君恨不平

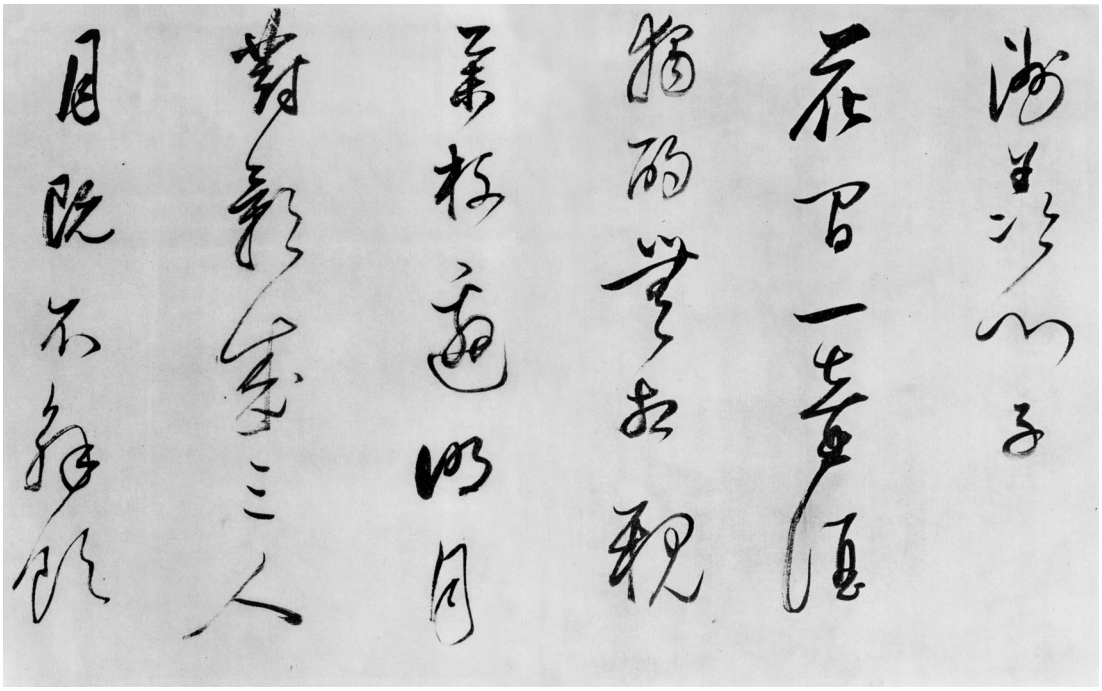
周処士が故居を経　方干

愁吟と独行と
何事か情に関わらざる
久しく釣魚の処に立ち
惟だ啼鳥の声を聞く
山蔬　雨に和して歇き
海樹　籬に入りて生ず
吾れ茲の渓上に在りて
君を懐うて　恨み平らかならず

朝日新聞社刊
「三体詩」下より

11月25日正午必着

臨書課題・半紙部参考



洲羨門子　花間一壺酒　獨酌無相親　擧杯邀明月　對影成三人
月既不解飲

董其昌・李白（りはく）・月下獨酌（げつかどくしゃく）

明代の書は、大きく三期に大別され語られることが多い。明が興って最初の百年の第一期は復古主義的な元代書法が命脈をつないだ時代であり、中期にあたる第二期はいわゆる「※呉中派」の台頭と、その活躍があげられる。文徴明・祝允明らが代表として、格調高く明朗な表現を築きあげ、新古典主義とでもいえる印象を与える。つづく第三期は董其昌・王鐸の巨星達の活躍によって大きなうねりを伴うものとなった。特に董其昌は、清新な作風を築きあげ理論面においても優れた見識の持ち主であった。

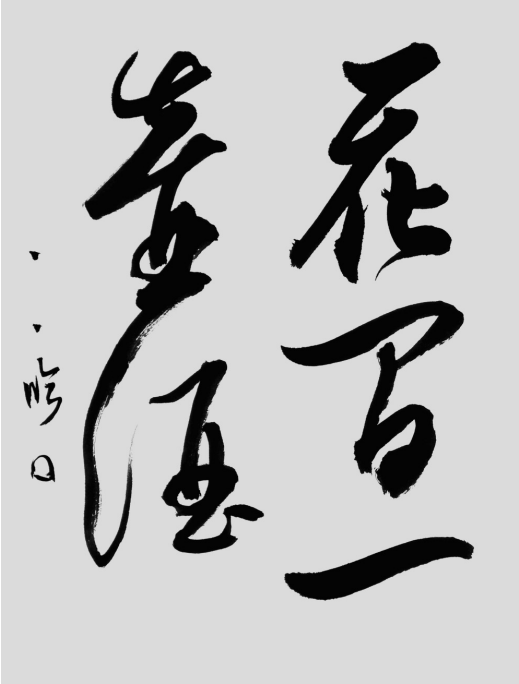
彼は若くして進士に及第し、高官にまでのぼりつめた人であった。古今のあらゆる書を研究し、多くの名蹟を鑑賞し、王羲之の書に目標をおくに至った。同時に彼は米芾をよく習い、自己の書の基礎とした。

この月下獨酌は李白の詩を一六二六年の元旦に書かれたもので、董其昌七十二歳の時の作である。王羲之（おうぎし）の書の精神を得て、すぐれた形似と韻致をあらわしており、瀟洒（しょうしゃ）で垢ぬけしている点では、古今独歩というべきかもしれない。

※呉中派…明代の文人画を復興させた画家の沈周を師とし、あるいは友として集まった人たちで、後には更に拡大して文徴明・祝允明らが中心となった。

（春廣）

雨宮春聲先生臨書



花間一壺酒

条幅部臨書参考

花間一壺酒　獨酌無相親　擧杯邀明月

≪倣書参考作品≫

※この釈文での臨書部門の出品は出来ません。

明月照白雲籠（寒　山）　明月は照らし白雲はそれをこめている。

11月25日正午必着

教育部毛筆

雨宮春聲先生書

地下資源（ちかしげん）　中学一年

菅井松雲先生書

経済大国（けいざいたいこく）　中学二三年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

榎戸春龍先生書

風立ちぬ　小学五年

横川春川先生書

山鳥の声　小学六年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

11月25日正午必着

藤田幸春先生書

虫（むし）　か　ご　　小学三年

細谷春誠先生書

赤（あか）　と　ん　ぼ　　小学四年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

明石幸子書

こ　め　　小学一年・幼年

森戸春濤書

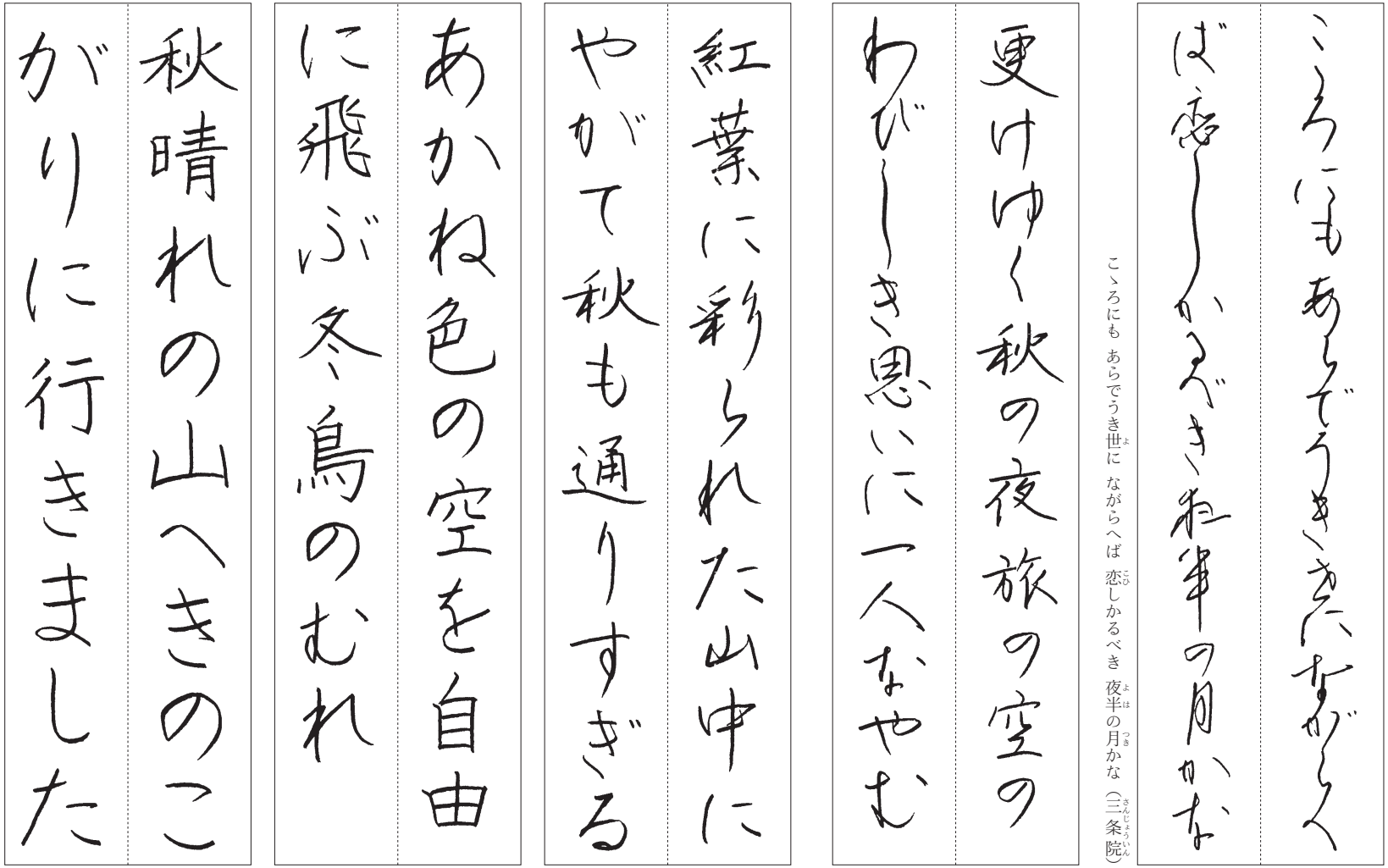
山（やま）　い　も　　小学二年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

11月25日正午必着

教育部硬筆

ペン字部



一般（段位）　一般（級位）　中　学　小学六年　小学五年

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆　中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。（ボールペン不可）
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

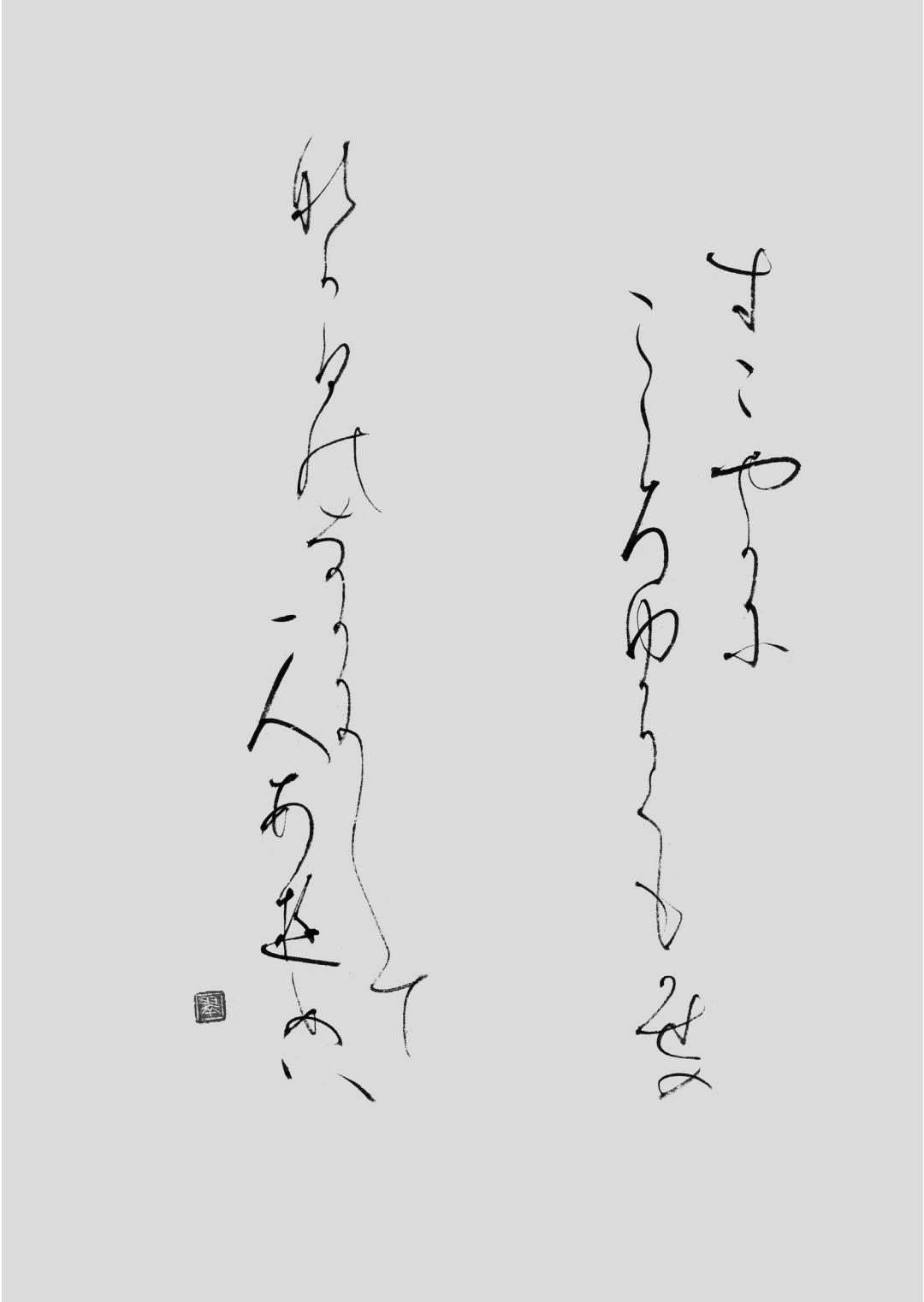
明石幸子書

幼　年　　小学一年　　小学二年　　小学三年　　小学四年

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆　中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。（ボールペン不可）
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

半紙部かな参考

11月25日正午必着



すこやかに　こゝろゆらくも　かぜのなか　日のなかにして　一人あゆめば

寸可尓　毛可　那可　能奈可尔　遊八

（古泉千樫）

松永翠舟先生書